

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語A

正答率が81%で県の平均正答率を5ポイント、全国を6.2ポイント超えることができました。正答率分布グラフを見てみると、低得点層（正答2問以下）が0.7%、正答3問～5問が2.0%であり、低得点層が少ないといえます。領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域で全国平均・大分県平均を上回りました。特に「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」問題の正答率が高く定着がみられます。

小学校：国語B

正答率が61%で県平均値・全国平均値を上回ることができました。正答率分布グラフを見てみますと、低得点層（正答1問以下）が3.3%、正答2～3問のグループが13.1%となっています。領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」において県・全国平均値を上回りましたが、「読むこと」においては下回りました。「話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える」問題では、高い平均正答率がみられました。「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることができるかどうかをみる」問題については課題がみられました。

2 具体的な改善方策

小学校：国語A

国語Aでは、低得点層から中得点層の児童に対して放課後等の時間を活用し対応する取組を実施します。また、全ての領域において全国平均値を上回る状況であることから、1時間の授業で付けさせたいこと（付けたい力）を明確にし、「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」のある授業を展開すると共に、テストやプリント類のファイリングでの復習の継続をすすめていきます。

小学校：国語B

国語Bでは、県・全国平均値を上回っていますが、低得点層から中得点層の児童のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を活用して対応する取組を実施します。また、設問別の課題が見られた問題の内容にある活動を授業の中で行うなどの授業改善を「どこの単元で」「いつ」「どのような手立てで」という視点をもって行います。そして、言語活動を通して指導事項を指導するように授業改善をさらにすすめていきます。

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数A

平均正答率が84%で全国平均正答率・大分県平均正答率を上回っています。正答率分布グラフを見てみると、低得点層（正答3問以下）が0%であると共に、高得点層が多い結果となっています。正答が14問以上（全15問）の児童が全体の46.1%を占めることができています。領域別では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において全国平均正答率を上回っています。問題別にみると、「商を分数で表すことができるかどうかをみる」問題に課題がみられました。

小学校：算数B

平均正答率が48%で全国平均正答率・大分県平均正答率を上回ることができました。正答率分布グラフを見てみると、低得点層（正答2問以下）が17.7%となっており低得点層が少し多いと言えます。領域別では、全ての領域で県・全国ともに上回っています。設問別では、「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できるかどうかをみる」問題で全国平均値を大きく上回っています。「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができるかどうかをみる」問題に課題がみられました。

2 具体的な改善方策

小学校：算数A

算数Aでは、基本的な事項が身につけている児童が多い状況です。しかしながら、「数と計算」の「商を分数で表すことができるかどうかをみる」問題で課題が見られます。整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを、図や数直線を使って実感的に理解できるようにすることが必要です。

授業では、導入段階からイメージしやすいように教材教具を工夫して指導をすることが必要です。

小学校：算数B

算数Bでは、正答5問以下の児童のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を使用し対応する取組を実施します。また、「記述する」問題が低い正答率になっていることから、設問別の課題が見られた問題の内容にある活動を授業の中で行うなどの授業改善を「どこの単元で」「いつ」「どのような手立てで」という視点をもって行います。そして、算数的活動を取り入れて指導事項を指導するように授業改善をさらにすすめます。

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語A

正答率が79%で全国平均正答率を上回り、大分県平均正答率と同じです。正答数分布グラフを見ても全国の分布に近いグラフとなっています。領域別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては全国平均値を上回りましたが、「書くこと」については、わずかに0.4%ですが全国平均値を下回りました。

中学校：国語B

平均正答率は72%で全国平均値と同じですが、大分県平均値と比べると1%下回りました。正答率分布グラフを見てみると、8問以上（9問中）正答の高得点層が全国の分布に比べ多いですが、低得点層（正答2問以下）が9.7%であり、低得点層から中間層の生徒を引き上げるための組織的な対策を行わなければなりません。領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては全国平均値・大分県平均値を上回っています。「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、1%未満の数値ですが下回っています。

2 具体的な改善方策

中学校：国語A

国語Aでは、正答9～22問のグループ（低～中得点層）の28.1%の生徒のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を使用し個別に対応する取組を実施します。全国平均並に基礎的な事項の理解ができているといえますが、繰り返し基礎基本の知識・技能の学習ができるように、テストやプリント類のファイリングと見直しを大切にしていくことが重要です。

小学校：国語B

国語Bでは、低得点層の9.7%の生徒のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を使用しての個に応じた取組を実施します。「相手にわかりやすく伝えるために、どんな情報が必要なのかを選択して話したり、書いたりする」問題に課題がありますので、相手の反応を踏まえて、伝えたいことが適切に伝わったかどうかについて考え、必要に応じて分かりやすい語句を用いて言い換えたり、複数の尋ね方を試してどれが最も分かりやすいかを検討したりする学習活動に取り組ませることが必要です。

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学A

平均正答率は66%で全国平均・県平均を上回ることができました。正答率分布グラフを見てみると、低得点層（正答12問以下）が13.8%、中得点層（正答13問以上24問以下）が33.8%、高得点層（正答25問以上36問）が52.4%であり、全国の分布と近い分布グラフになっています。領域別では、「数と式」「関数」「資料の活用」において、全国平均を上回りました。「図形」においては大分県平均値を上回りましたが、全国平均値を1%下回っています。

中学校：数学B

平均正答率が45%で全国平均値・大分県平均値を下回っています。正答率分布グラフを見てみると、正答5問（15問中）までの生徒は37.8%になり、この層の生徒が中得点層以上になるように組織的な対策を行わなければなりません。領域別では、「数と式」が全国平均値・大分県平均値を上回りました。「図形」「関数」「資料の活用」が全国平均値を下回りました。設問別では、記述式の問題に課題が見られました。

2 具体的な改善方策

中学校：数学A

数学Aでは、低得点層及び中得点層の生徒のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を使用しきめ細かな指導を行う取組を実施します。また「図形」の内容に課題が見られるので、導入段階からイメージしやすいように教材教具を工夫するとともに、テスト問題やデータベース等のプリント類のファイリングと見直しで確実な定着が大切です。

中学校：数学B

数学Bでは、低得点層及び中得点層の生徒のつまずきに対する実態把握を各校において実施し、一人一人に放課後等の時間を使用し対応する取組を実施します。また、「2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる」「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」「事柄を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」「筋道を立てて考え、証明することができる」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という記述式の問題に課題が見られます。授業中に生徒同士で話し合わせたり、説明をしたりする等の数学的活動を「どこの単元で」「いつ」「どのような手立てで」という視点をもって授業の中で仕組まなければなりません。

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）紙

1 調査結果の概要

児童質問紙

【学習に対する関心・意欲・態度（国語）】

「将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の問いに対して肯定的回答が80.3%（全国74.3%）、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」との回答が83.6%（全国77.2%）でありました。また、「国語の勉強は好きですか」の問いに対しての肯定回答が71%（全国60.5%）でした。これらのことから、本市の児童の国語に対する関心・意欲・態度は高いといえます。

「授業中に自分の考えを話したり、書いたりしていますか」、「授業で発表するときに、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」といった問いに対しては全国平均値と同程度です。今後も児童が授業の中で思考・判断・表現する場の設定を行っていく必要があります。

【学習に対する関心・意欲・態度（算数）】

「算数の勉強は好きですか」の問いに対しての肯定回答が66.5%（全国65.9%）でした。また、「授業の内容はよくわかりますか」の問いに対しての肯定回答が80.2%（全国80.6%）、「将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の問いに対しての肯定的回答が92.1%（全国89.1%）、「もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の問いに対しての肯定回答が80.9%（全国81.4%）でありました。関心・意欲・態度についての問いのほとんどで全国の平均を上回るか同程度であり、引き続き本市の児童の算数に対する関心・意欲・態度を高めていかなければなりません。

【学習に対する関心・意欲・態度（総合的な学習の時間）】

「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」の問いに対しての肯定回答が65.2%（全国69.8%）であり、全国値を下回っています。現在も上記のような活動に取り組むようにしていますが、より一層の取組の推進が望まれます。

【学習状況（言語活動）】

「自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の問いに対する肯定回答が58.6%（全国52.2%）、「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が90.1%（全国84.7%）、「学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が87.5%（全国84.5%）でした。また、「原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」の問いに対して、難しいと思っている児童が全国平均と比べて少ない割合でした。このような結果から、授業の中での言語活動の充実が図られており児童が積極的に取り

組んでいるといえます。

しかし、「自分の考えを他の人に説明したり、文書に書いたりすること」を難しいと考えている児童の割合が全国平均と比べて多いことを考えると、より一層の取組の充実が望まれます。

【学習状況（指導状況）】

「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が87.5%（全国88.2%）、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が83.5%（全国76.2%）、「ノートに学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が87.5%（全校88.7%）でした。このような結果から、児童自らがすすんで学ぶ、目標やまとめのある授業のより一層の取組の充実が必要です。

【学習時間等】

普段（月～金曜日）1日当たりの勉強時間については、「まったくしない」と答えた児童は全国平均よりも少なく、2.6%（全国2.9%）でした。「2時間以上」と答えた児童は10.5%（全国27.1%）で少ない状況であります。本市の児童は「1時間～2時間」と答えた児童が44.1%（全国37.3%）、「1時間未満」と答えた児童が42.8%（全国32.7%）となっており、全国の状況と比べると学習時間が短いことがわかります。学校の宿題以外の学習の取組、宿題が早く終わった時の自主的な学習の取組等、今後の組織的な取組を実施したいと考えています。

「塾に行っていない児童」は63.8%（全国53.7%）であり、塾に通っていない児童が全体の約2/3です。

読書については、「普段1日当たりの読書時間」が「10分以上」である児童が63.1%（全国63.3%）であり全国と同程度ですが、さらなる読書量の増加が望まれます。

「自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに対しての肯定回答は58.6%（全国64.5%）であり、低い状況にあります。

「予習・復習をしていますか」の問いに対しては、予習については全国平均を下回っていますが、復習については全国平均を上回っています。

【学校生活等】

「学校はたのしいと思いますか」の問いに対しての肯定回答は88.2%（全国86.3%）、「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」の問いに対しての肯定回答は87.5%（全国87.8%）でした。引き続き充実した学校生活を送ることができるようにしなければなりません。

【基本的生活習慣】

朝食の摂取状況や起床・就寝の状況は全国平均と同程度です。

「普段の1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間」については、「2時間以上、3時間未満」の児童の割合は20.4%（全国23.0%）、「3時間以上」の児童は37.5%（全国32.7%）であり、全国平均より高くなっています。

「普段の1日あたりのゲームやPCゲームの使用時間」は「4時間以上」が5.3%（全国9.3%）、「3時間以上、4時間未満」が7.2%（全国8.3%）、「2時間以上、3時間未満」が16.4%（全

国13.5%)、であります。

「普段の1日あたりの携帯電話・スマートフォンでの使用時間」については、「もっていない」児童が41.4%(全国36.7%)で、昨年度の31.3%と比較すると、小学生への携帯電話の広まりは未だみられないことがわかります。「1～2時間」が11.2%、「2～3時間」が5.3%、「3～4時間」が3.3%、「4時間以上」が3.3%で、1時間以上使用している児童が、23.1%いることになります。

この結果から、児童のテレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォンの使用についての指導を充実させる必要があるといえます。

【家庭・地域・社会との関わり】

家庭でのコミュニケーションについては、「家の人と学校での出来事について話をしますか」の問いに対する肯定回答が80.9%(全国78.1%)であり、全国平均と比べて高い傾向にあります。

「地域行事への参加」については、「参加している」と回答した児童が71.1%(全国62.6%)、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の問いに対する肯定回答が65.8%(全国59.3%)であり、積極的に地域社会と関わっている実態が見られます。

【将来に関する意識】

「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対する肯定回答が91.5%(全国85.9%)であり、全国平均と比較して夢や目標を持っている児童がとて多いことがわかります。

【自尊意識】

「最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の問いに対する肯定回答が92.8%(全国94.8%)、「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか」の問いに対する肯定回答は81.6%(全国77.4%)と、自尊意識の高い子どもが多いことがわかります。また、「自分にはよいところがあるとおもいますか」に対する肯定回答は80.2%(全国77.9%)であります。積極的に物事にチャレンジする経験や自尊感情を高める取組を継続しなければなりません。

【規範意識】

「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定回答は92.1%(全国92.6%)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定回答は96.7%(全国96.1%)であり、規範意識を育てるさらなる取組が必要です。

生徒質問紙

【学習に対する関心・意欲・態度（国語）】

「国語の勉強は好きですか」の問いに対しての肯定回答が72.0%（全国60.5%）でした。また、「将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の問いに対しての肯定回答が94.3%（全国83.3%）であり、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」との回答が99.4%（全国95.9%）で全国平均値を上回りました。全ての項目で全国平均を上回っており、高い意欲も持って学習できているといえます。生徒が授業の中で高い意欲を持ち、思考・判断・表現することができる授業改善を継続していくことが必要です。

【学習に対する関心・意欲・態度（数学）】

「数学の勉強は好きですか」の問いに対しての肯定回答が64.0%（全国55.4%）でした。また、「授業の内容はよくわかりますか」の問いに対しての肯定回答が70.3%（全国69.4%）であり、一人ひとりの実態にあった指導の工夫が行われていることがわかります。「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の問いに対しての肯定回答が80.6%（全国73.5%）であり、「数学ができるようになりたいと思いますか」の問いに対しての肯定回答が97.1%（全国91.2%）、「普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いに対しての肯定回答が57.7%（全国45.3%）で全国平均値を上回っており、継続して生徒の持つ意欲を活かす指導が求められます。また、「もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」の問いについても肯定回答が全国平均値を上回っており生徒自身で考えたり、説明したり、話し合ったりする言語活動を充実させた授業改善が進んでいるといえます。

【学習に対する関心・意欲・態度（総合的な学習の時間）】

「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いに対する肯定回答68.5%（全国64.3%）と全国平均値を上回っており、一層の取組の推進が望まれます。

【学習状況（言語活動）】

「自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の問いに対する肯定回答が64.6%（全国50.5%）、「友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」の問いに対する肯定回答は98.3%（全国94.6%）と全国平均を上回っています。

「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が91.4%（全国84.4%）、「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」の問いに対する肯定回答が81.2%（全国71.3%）でした。このような結果から授業での言語活動の充実がなされていることがわかります。

【学習状況（指導状況）】

「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が100%（全国87.8%）、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の問いに対する肯定回

答が92.6%（全国66.1%）、「ノートに学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」の問いに対する肯定回答が97.7%（全校80.3%）でした。このような結果をみてみますと、目標とまとめのある授業が行われていることがうかがえます。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対する肯定回答が93.2%（全国80.4%）であり、生徒指導の3機能（自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係）を活かした授業・生徒指導の取組がすすんでいることがわかります。

【学習時間等】

普段（月～金曜日）1日当たりの勉強時間については、「まったくしない」と答えた生徒は全国平均よりも少なく、2.3%（全国4.9%）でした。しかしながら、「2時間以上」と答えた生徒は22.3%（全国35.4%）で少ない状況であります。本市の生徒は「1時間～2時間」と答えた生徒が37.7%（全国34.2%）、「1時間未満」と答えた生徒が37.7%（全国25.5%）となっており、全国の状況と比べると学習時間が短いことがわかりました。今後の組織的な取組を実施したいと考えています。

「塾に行っていない生徒」は58.9%（全国38.5%）と高い割合となっておりますが、学びの21世紀塾を利用し補充学習にも頑張っています。

読書については、「普段1日当たりの読書時間」が「10分以上」である生徒が63.4%（全国51.4%）、また、「2時間以上」の生徒が9.7%（全国5.7%）の結果から、生徒が読書にとっても親しんでいることがわかります。

「自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに対しての肯定回答は66.3%（全国51.5%）であり、計画的な生活・学習のための支援の継続が必要です。

「予習・復習をしていますか」の問いに対しては、予習は31.4%（全国31.7%）、復習は69.2%（全国50.5%）となっており、特に予習の取り組み方を指導する必要があります。

【学校生活等】

「学校はたのしいと思いますか」の問いに対しての肯定回答は91.4%（全国80.9%）であり、「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」の設問の肯定回答が92.6%（全国86%）と全国平均を上回っていることから、多くの生徒が充実した学校生活を送っていると考えられます。

【基本的生活習慣】

「朝食を毎日食べていますか」についての肯定的回答は95.4%（全国93.2%）、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」についての肯定的回答は84.0%（全国75.6%）、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」についての肯定的回答は98.3%（全国92.4%）であり、規則正しい生活習慣が身についている生徒が多いといえます。

「普段の1日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間」については、「2時間以上」の生徒の割合は51.4%（全国49.1%）であります。

「普段の1日当たりのゲームやPCゲームの使用時間」は「2時間以上」が36.6%（全国37.

6%)であります。

「普段の1日あたりの携帯電話・スマートフォンでの使用時間」は「もっていない」生徒が14.9% (全国16.1%)、「1～2時間」が18.9% (全国18.2%)、「2～3時間」が16.0% (全国14.1%)、「3～4時間」が12.6% (全国8.6%)、「4時間以上」が3.4% (全国9.5%)で、1時間以上使用している生徒が50.9% (全国50.4%)で昨年度の40.7%から上昇しており指導の継続が必要です。

生徒のテレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォンの使用については、PTA・小・中の連携した指導を充実させる必要があります。

【家庭・地域・社会との関わり】

家庭でのコミュニケーションについては、「話をしている」と回答した生徒が80.6% (全国74.3%)で全国平均より高くなっています。また、「地域行事への参加」についても「参加している」と回答した生徒が71.4% (全国42.1%)であり、積極的に関わっている実態が見られます。また「社会に対する興味・関心」においては、「関心がある」と回答した生徒が77.2% (全国59.2%)であり、高い傾向が伺えます。

【将来に関する意識】

「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対する肯定回答が76.6% (全国70.5%)であり、多くの生徒が夢や目標を持っています。

【自尊意識】

「最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」については、92.6% (全国86.0%)、「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか」の問いに対する肯定回答は85.2% (全国71.0%)であり、積極的に物事にチャレンジしている生徒が多いことがわかります。また、「自分にはよいところがあるとおもいますか」に対する肯定回答は81.7% (全国70.7%)であり、自尊感情の高い生徒が多いといえます。

【規範意識】

「学校の規則を守っていますか」に対する肯定回答は97.1% (全国95.2%)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定回答は98.3% (全国92.8%)であり規範意識も育っていると考えられますが、今後も継続した指導をしなければなりません。

【 豊後高田市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

【児童】

「自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか」の問いに対して「その通りだと思う」の回答が18.2%（全国21.9%）で、「どちらかといえば、そう思う」を含めると100%でした。「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」の問いに対して肯定回答が72.7%（全国63.0%）でありました。しかし、「児童は、熱意をもって勉強していると思いますか」の問いに対して「その通りだと思う」の回答が36.4%（全国26.5%）で、「どちらかといえば、そう思う」を含めると100%でした。本市の児童が熱意を持って勉強に取り組めるような取組をさらに進めていかなければなりません。

【学力向上に向けた取組】

「児童に対して、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」の問いに対して「週に1回程度以上行った」から「月に数回程度行った」の回答が54.6%（全国42.6%）でした。「児童に対して、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか」の問いに対して「月に数回程度行った」の回答が90.9%（全国2.9%）でありました。また、「長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか」の問いに対して「延べ5日から8日以上」実施しているとの回答が100%（全国27.5%、県59.2%）でした。本市の学力向上に向けた取組を引き続き推進していかなければなりません。

【カリキュラム・マネジメント】

「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか」の問いに対して「よくしている」の回答が36.4%（全国20.2%）で、「どちらかといえば、している」を含めると90.9%（全国86.7%）でした。「教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか」の問いに対して「よくしている」が45.5%（全国24.9%）で、「どちらかといえば、している」を含めると91.0%（全国85.8%）でした。本市においてはカリキュラム・マネジメントが定着してきているのでさらなる改善が必要です。

【指導方法・学習規律】

「児童に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」の問いに対しての肯定的回答が100%（全国75.7%）でした。「児童に対して、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」の問いに対して肯定回答が90.9%（全国78.5%）でありました。また、「児童に対して、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」の問いに対しての肯定回答が100%（全国97.4%）、「児童に対して、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の問いに対しての肯定回答が90.9%（全国82.3%）でした。本市の指導方法・学習規律について良い所は継続し、授業改善を粘り強く進めていかなければなりません。

【コンピュータなどを活用した教育】

「児童に対して、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか」の問いに対して「行った」の肯定的回答が100%（全国71.6%）でした。また、「児童に対して、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか」の問いに対して「月1回以上」の回答が54.6%（全国44.9%）でした。本市においてはコンピュータなどを活用した教育が積極的に実施されていることがわかりますが、コンピュータを活用した教育が全ての教職員に広まるように研修を推進していかなければなりません。

【調査結果の活用】

「全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が90.9%（全国53.7%）、「行った」の回答まで含めると100%でした。「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）」の問いに対して「よく行った」の回答が90.9%（全国33.2%）、「行った」の回答まで含めると100%でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、本市においては調査結果の活用がされていることがわかります。

【個に応じた指導】

「国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が45.5%（全国18.0%）で、「どちらかといえば、行った」を含めると肯定的回答は91.0%（全国79.1%）でした。本市においては、個に応じた基礎基本の定着のための指導が行われているといえます。

【国語科の指導方法】

「児童に対する国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が54.5%（全国24.5%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると90.9%でした。また、「国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか」「発展的な学習の指導を行いましたか」の問いに対しても肯定的な回答の割合が高くなっています。本市における国語科の指導方法についてさらなる改善に努めるとともに、特に発展的な学習の指導にも対応できるように授業改善を進めていかなければなりません。

【算数科の指導方法】

「児童に対する算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」の問いに対しての肯定的回答が81.8%（全国75.2%）でした。また、「算数の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が81.8%（全国41.4%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%でした。「算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が54.5%（全国13.7%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%でした。本市における算数科の指導方法については、組織的な取組が行われているといえます。

【特別支援教育】

「学校の教員は、特別支援教育について理解し、児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が63.6%（全国35.2%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると90.9%（全国91.3%）でした。本市における特別支援教育については、組織的な取組が行われているといえます。

【小学校教育と中学校教育の連携】

「近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が45.5%（全国24.9%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると72.8%（全国65.6%）でした。また、「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が36.4%（全国15.9%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると81.9%（全国53.0%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、小中の連携は進んでいるといえますが、「教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組」についても連携する必要があります。

【地域の人材・施設の活用】

「児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が63.6%（全国36.7%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%（全国84.2%）でした。また、「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、

保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか」の問いに対して「よく参加してくれる」の回答が81.8%（全国51.0%）で、「参加してくれる」までを含めると90.9%（全国88.7%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、地域の人材・施設の活用は進んでいるといえます。新たな地域人材を見つけるためにも、教職員は積極的に地域と関わりを持たなければなりません。

【家庭学習】

「児童に対して、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が81.8%（全国45.6%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%（全国89.6%）でした。しかし、「児童に対して、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が54.5%（全国41.2%、県54.5%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると90.9%（全国92.2%、県96.1%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、家庭学習について指導はできているといえますが、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら指導するなど、より丁寧な指導になるよう改善する必要があります。

【教員研修】

「個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか」の問いに対して「よくしている」の回答が54.5%（全国36.7%）で、「どちらかといえば、している」までを含めると90.9%（全国85.5%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、教員研修は組織的に行われているといえますが、一層研修に励まなければなりません。

【教職員の取組】

「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」の問いに対して「よくしている」の回答が54.5%（全国37.1%）で、「どちらかといえば、している」までを含めると100%（全国92.3%）でした。また、「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」の問いに対して「よくしている」の回答が72.7%（全国58.1%）で、「どちらかといえば、している」までを含めると100%でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、教職員の取組は組織的に行うことができているといえます。

中学校：学校質問紙

【生徒・学習規律】

「生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」の問いに対しての肯定回答が100%（全国94.6%）でした。また、「生徒は礼儀正しいと思いますか」の問いに対して、「その通りだと思う」の回答が50.0%（全国43.6%）で、「どちらかといえば、そう思う」を含めると100%（全国93.7%）でした。これらのことから、本市の生徒は落ち着いて授業等に取り組んでいるといえます。しかし、「生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」の問いに対して「その通りだと思う」の回答が16.7%（全国11.8%）で、「どちらかといえば、そう思う」を含めると66.7%（全国75.9%）でした。学習規律についての指導を徹底するとともに、自分の考えを伝えることのできる生徒の育成が必要です。

【学力向上に向けた取組】

「生徒に対して、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」の問いに対して「週に1回程度以上行った」から「学期に数回程度行った」の回答が83.4%（全国49.6%）でした。「生徒に対して、土曜日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか」の問いに対して「月に数回程度行った」の回答が100%（全国8.6%※「基本的に毎週行った」を含む）でありました。引き続き学力向上に向けた取組を推進していかなければなりません。

【カリキュラム・マネジメント】

「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか」の問いに対して、「よくしている」の回答が50.0%（全国16.0%）で、「どちらかといえばよくしている」を含めると肯定的な回答が83.3%（全国78.3%）でした。「教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか」の問いに対して「よくしている」が66.7%（全国21.2%）で、「どちらかといえば、している」を含めると83.4%（全国77.5%）でした。本市においてはカリキュラム・マネジメントが定着してきているので、さらなる改善の取組が必要です。

【指導方法】

「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか」の問いに対して「よく行った」が83.3%（全国65.4%）で、「どちらかといえば行った」までを含めると100%（全国98.3%）でした。「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」の問いに対して「よく行った」が83.3%（全国43.2%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めるとでした。しかし、「本やインターネットなどを使った資料の調べか方が身に付くように指導しまし

たか」の問いに対して「どちらかといえば、行った」までを含めた肯定回答が83.3%（全国83.5%）ですが、「よく行った」の回答割合が全国と比べて低い傾向にありました。他の問いから見ても肯定的な回答が多く、本市の授業方法については改善されてきています。本やインターネットなどを使った資料の調べ方については、これまで以上に積極的な指導が必要です。

【コンピュータなどを活用した教育】

「生徒に対して、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか」の問いに対しての肯定的回答が100%（全国63.8%）でした。また、「生徒に対して、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか」の問いに対して「週1回以上」の回答が33.3%（全国8.7%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、本市においてはコンピュータなどを活用した教育が積極的に実施されていることがわかります。コンピュータを活用した教育が全ての教職員に広まるように研修を推進していかなければなりません。

【調査結果の活用】

「全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が83.3%（全国43.5%）、「行った」の回答まで含めると100%（全国97.3%）でした。「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」の問いに対して「よく行った」の肯定的回答が83.3%（全国35.4%）、「行った」の回答まで含めると100%でした。「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）」の問いに対して「よく行った」の回答が83.3%（全国31.2%）、「行った」の回答まで含めると100%（全国86.8%）でした。これらのことから本市においては調査結果の活用がされていることがわかります。

【個に応じた指導】

「生徒に対して、数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか」の問いに対して「行った」の肯定的回答が83.3%（全国27.3%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、本市においては、習熟度に応じた個別指導が行われ、基礎基本の定着とともに発展的な内容の指導が行われているといえます。

【国語科の指導方法】

「生徒に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が33.3%（全国10.5%）で、「行った」までを含めると83.3%（全国67.4%）でした。また、「国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか」の問いに対しても肯定的な回答の割合が高くなっています。しかし、「生徒に対する国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付け

る授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が16.7%（全国28.3%）、「生徒に対する国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が33.3%（全国41.3%）、「生徒に対する国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が33.3%（全国60.2%）でした。「どちらかといえば、行った」までを含めるといずれも100%の肯定的回答ですが、本市においての国語科の指導方法についてさらなる改善に努めるとともに、読む習慣・書く習慣をつけることや漢字・語句などの基礎的・基本的な事項の定着の徹底をすることが必要です。

【数学科の指導方法】

「補充的な学習を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が66.7%（全国32.7%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%（全国91.9%）でした。しかし、「発展的な学習の指導を行いましたか」の問いに対しての肯定的回答が66.6%（全国71.2%）でした。本市において、数学科の基礎基本の徹底については組織的な取組が行われていますので、「発展的な学習の指導」「実生活における事象との関連を図った指導」における授業改善にさらに取り組んでいくことが必要です。

【特別支援教育】

「学校の教員は、特別支援教育について理解し、生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」の問いに対して肯定的回答が100%（全国90.9%）でした。本市においての特別支援教育については、組織的な取組が行われているといえます。

【小学校教育と中学校教育の連携】

「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校の成果や課題を共有しましたか」の問いに対して「よく行った」の肯定的な回答が33.3%（全国19.8%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると83.3%（全国56.8%）でした。「近隣等の小学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか」「近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」の問いに対して、「よく行った」の回答の割合が全国より高くなっていますが、「あまり行っていない」の回答もあります。小中の連携を組織的にすることができているといえますが、全ての中学校がより積極的に取り組むことができるようにすることが必要です。

【地域の人材・施設の活用】

「生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が50.0%（全国22.7%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%（全国68.9%）でした。また、「PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など）にボランティアとして参加してくれますか」の問いに対して「よく参加してくれる」の回答が83.3%（全国60.6%）で、「参加してくれる」まで含めると100%（全国97.5%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、地域の人材・施設の活用は進んでいるといえます。

【家庭学習】

「保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか」の問いに対して「よく行った」の回答が66.7%（全国35.0%）で、「どちらかといえば、行った」までを含めると100%でした。しかし、「生徒に対して、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／数学共通）」の問いに対して「行った」の肯定的な回答が66.7%（県76.8%、全国69.8%）でした。

他の質問に対しても肯定的な回答の割合が高いことから、家庭学習について組織的な指導ができているといえますが、さらに家庭学習の質を高める取組が必要です。

【教員研修】

「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか」の問いに対して「よくしている」の回答が50.0%（全国28.1%）で、「どちらかといえば、している」を含めると100%でした。また、「教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか」の問いに対しての肯定的回答が83.3%（全国81.5%）でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、教員研修は組織的に行われているといえます。組織的に行われている教員研修ですが、研修内容についてもさらに深めていく必要があります。

【教職員の取組】

「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」の問いに対して「よくしている」の回答が83.3%（全国56.5%）で、「どちらかといえば、している」までを含めると100%でした。また、「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」の問いに対して「よくしている」の回答が83.3%（全国49.6%）で、「どちらかといえば、している」までを含めると100%でした。このことや他の問いについても肯定的回答が多いことから、教職員の取組は組織的に行うことができているといえます。